スキー・スノーボードシーズン到来
三井野原でスキー場開き

▲期間中の安全と来客を祈願

１２月２３日、三井野原スキー場のスキー場開きが行われました。

アシハラゲレンデで行われた安全祈願祭には、井上町長をはじめ来賓、地元観光協会や民宿経営者など約５０人が出席し、シーズン中の安全と大勢の来客を祈願しました。

神事の後には、餅つきが行われ、出席者につきたてのお餅が振る舞われました。

ゲレンデには６０センチ以上の積雪があり絶好のコンディション。家族連れなどが早速スキーやスノーボードの初滑りを楽しんでいました。

スキー場は３月２日まで営業される予定です。

初心者や家族でも楽しめる
三井野原スキー場
H26. 3. 2まで営業予定
（積雪状況による）
詳しいゲレンデ情報は
「三井野原スキー場」で **検索**

しおかぜ駅伝で力走！
奥出雲町チーム六位入賞

▲奥出雲町チームの皆さん

十二月八日、初冬の石見路を舞台とする第二十二回浜田・益田間駅伝競走大会（しおかぜ駅伝）が開催され、奥出雲町チームが第六位に入賞しました。

コースは、益田陸上競技場をスタートし、浜田市のしまねお魚センター前をゴールとする九区間、四十二・一九五キロ。県内の中学生から一般の男女で編成された四十一チームが参加し、世代を超えたたすきリレーを繰り広げました。

奥出雲町チームは、チーム史上最多の三区間（二区：田部雄作選手、三区：古井敏朗選手、六区：鳥谷茜選手）で区間賞を獲得するなど奮闘し、三区途中から七区途中までトップに立ち、他の強豪チームを引っ張る展開を見せ、大会を盛り上げました。

藤原幹男監督は「前半重視で臨んだが、選手は予想を上回る健闘を見せ、来年に繋がるレースが展開できたことは大きな収穫となった。高校・一般選手の強化が課題となったので、更に練習を重ねチーム力向上に努めたい」と選手のがんばりを称えました。

第一八回中四国中学生選抜剣道大会

▲熱戦の様子

第一八回中四国中学生選抜剣道大会が十二月八日、町民体育館で開催され、中四国各県から男女合わせて四十八チームが出場し、日頃の鍛錬の成果を競い合いました。

奥出雲町からは、仁多・横田両中学校から男子・女子チームがそれぞれ出場し、強豪校を相手に健闘しました。

また、前日には練習試合である錬成大会も行われ、剣の道を学ぶ中学生同士が、技術の向上はもとより、互いの交流も深め合い、思い出に残る大会となりました。

38豪雪を題材にした絵本を寄贈

◀絵本を寄贈された堀江さん（左）と山本さん（右）

町内の保育所・幼児園、幼稚園、小学校へ絵本「がんばれ機関車38豪雪レスキュー大作戦」が寄贈されました。

この絵本は、雲南市木次町の堀江朋子さんが自費出版したもので、昭和三十八年二月の豪雪により、八川地区の坂根で脱線した蒸気機関車の救出劇が描かれています。堀江さんが文章を作成し、絵は同町のグラフィックデザイナー山本真裕さんが手掛けました。

機関車の救出に大奮闘する機関士たちの勇気ある行動が、親しみやすい絵で細部にわたり描かれています。

十二月十三日には、横田幼児園で堀江さんから園児に絵本が手渡され、堀江さんは「雲南市とともに木次線沿線の奥出雲町の子どもたちにも読んでもらいたい」と話されました。

その後、保育士から絵本が読まれると、園児たちは当時の様子を想像しながら興味深く聞き入っていました。

▲絵本を受け取る園児の様子

たたら製鉄の伝統技術と精神
日本の宝として紹介

東京お台場の日本未来科学館で開催されている企画展「ＴＨＥ世界一展～極める日本！モノづくり～」で、奥出雲のたたら製鉄と雲州そろばんが展示、紹介されています。

この企画展では、古代より受け継がれてきた伝統技術から現在の最先端技術にいたるまで、日本で生まれた世界一の製品・技術を二百点以上展示。特に、たたら製鉄は「技の伝承」「自然との共生」「こだわり」が、今回の企画展の趣旨に深く関わるものとして大きく紹介されています。

十二月六日に行われたオープニングセレモニーには木原明村下が出席し、館長で宇宙飛行士の毛利衛さんらと共にテープカットを行いました。

企画展は五月六日まで開催。訪れる多くの人々に「たたらの里奥出雲町」がピーアールされます。

▲テープカットをする木原村下（右から2番目）と毛利館長（左から3番目）

有事に備えて小型ポンプ車を更新

▶配備された小型ポンプ車

老朽化した消防車両を更新し、安全・迅速な消防活動を実施するため、町から町消防団に小型動力ポンプ付普通積載車が四台交付され、十二月二十一日に仁多庁舎前で交付式が行われました。

式では、井上町長から安部正教団長に目録が贈られ、団長から「今後も地域住民の信頼と期待に応えられる消防団として活動していきたい」とあいさつがありました。

車両は、布勢分団第五部、鳥上分団第三部、八川分団第四部、馬木分団第五部にそれぞれ配備されました。

町では地域住民の生命や財産の保全のために、今後も消防設備の充実を図っていきます。

▲交付式の様子